

り、其家斷絶に及べば、其獸も失ぬめとほしといふ獸によく似たりともいへば、一類なるにや、四國の犬神も、形小狗の如く、鼠の大きなり、其主平人となりて、其種を除きても、其家に傳はるといふも亦同じ。

中寒

〔病名彙解^二〕中寒 傷寒ニ比レバ尤モ甚キ證ナリ、寒毒ニ中ラル、也、

中暑
注夏病

〔牛山活套^上〕中暑 中暈 注夏病

暑邪ノ症ニ二ツ有、動テ得之謂中熱、或ハ中暈ト名ク、靜ニシテ得之謂中暑也、^略○中

注夏病ト云ハ、春ノ末、夏ノ初ヨリ頭痛シ、身ニ微熱アリテ手足ノ心熱アリ、形體倦憊シ、小便黃ミ、好テ晝寢ヲシテ、脚軟弱ニシテ行歩ニツカレ、面色萎黃ニシテ、形體羸瘦シ、飲食不進也、和俗之ヲ夏ジケ、又ハ夏ヤセノ病ト云、

〔病名彙解^二〕中暑并中熱 夏炎天ノ暑氣ニアタリ煩コト也、潔古ガ曰、靜ニシテコレヲ得ルヲ中暑トナシ、動テコレヲ得ルヲ中熱トス、

〔病名彙解^二〕注夏病 人、五六月ノ時分、身節ダルク、アツケニクルシミ、心アシキナリ、俗ニナツヤセト云モノナリ、子和ガ曰、痿ノ作ルナリ、皆五月六月七月ノ時ナリ、午ハ少陰君火ノ位、未ハ濕土庚金伏火ノ地、申ハ少陽相火ノ分、故ニ痿、此三月ノ内ニ發リ、熱ヲナスナリ、故ニ痿ヲ病ノ人、其脈浮大ナリト云リ、玉案ニ云、注夏病ハ、春ノ末、夏ノ初ニ遇テ、便チ頭疼脚酸コトヲ覺ヘ、神思困倦シ、飲食減少シ、四肢消瘦、軟弱ニシテ力乏ト云リ、

〔內科秘錄^三〕中暑

中暑ハ宋元以降ノ名ナリ、古ハ暈ト謂ヘリ、今ハ一口ニ中暑霍亂ト併稱シテ、輕キ者ハ中暑重キ者ハ霍亂ト心得テ、二病ナルコトヲ辨ゼズ、愚按ズルニ、人身夏月暑時ニ遭フトキハ、腠理自ラ開キ、汗モ多ク出デ、脾胃虛弱ニナリ、暑邪ニ中リ易ク、又飲食ニモ傷ラレ易シ、暑氣ニ中ル者ハ即